

武蔵野市第四期長期計画調整計画策定委員会と武蔵野市第四期長期計画
調整計画市民会議との意見交換会 会議要録

- 日 時 平成 19 年 9 月 2 日（日曜日） 午後 1 時 30 分から午後 5 時まで
- 場 所 市役所 8 階 802 会議室
- 出席者 田村委員長、山本副委員長、酒井副委員長、栗田委員、栗原委員、小原委員、
前川委員、向井委員、村井委員、会田委員
市民会議市民委員 52 名、企画政策室長、企画調整課長、企画調整課副参事（行政経営・評価担当）、企画調整課副参事（新公共施設開設準備担当）ほか、
傍聴者 7 名

1. 開 会

【委員長】

市民会議と策定委員会の意見交換会を開催する。多くの方にお集まりいただき感謝する。策定委員会で討議要綱を策定し、9月いっぱい意見をいただくことになっている。今回の討議要綱は、調整計画のミニ版となっていない。意見が多様化する中、策定委員会で拙速に結論をだすよりも、この間の状況変化の中で議論すべきことがたくさん出てきた。討議要綱は、これから議論する課題を中心に策定した。計画を想像すると欠けている部分があるが、調整計画原案で示していく。非常に短い時間であるが、分野ごとにご意見をいただきたい。

2. 健康・福祉分野

【市民】

事前に市民委員の意見を集約したので、まとめて申し上げる。

近年、社会・経済状況の変化が激しい。武蔵野市独自の短・中・長期のきめ細かい政策をお願いしたい。

今回の計画では、各事業のタイムスケジュール、費用対効果等を明確にしてほしい。

討議要綱 P17 に「認知症のある高齢者や障がい者」との記述があるが、高齢者全体の問題である。「認知症のある」の部分を削除願いたい。

災害時対応システムについては、先進自治体の事例を参考に、まず官としてのしくみを

つくるのが大事だ。続いて、地域のあらゆる組織を総動員して、システムの確立をすべきである。また、情報収集に関しては、すでにある官と民の情報を早急に集約して活用するのが基本と考える。

地域包括支援センターは、総合窓口としての本来的な役割を果たしていないと理解している。総合的な役割を期待している。本来あるべき位置づけ、役割の強化を是非行っていただきたい。なお、3か所ではまかないきれないため、少なくとも各中学校区に1か所は必要だ。

提言書に記載した医療センターについては、大きな設備を望んでいるわけではない。電話をすれば、専門的に判断し、医療に関する総合的な情報を提供するようなものをイメージしている。また、こころのケアを行うカウンセラー（専門家）を配置していただきたい。

成年後見制度は、制度利用の費用が高い。ぜひ、市の助成をお願いしたい。

障害者自立支援法の施行により、施設利用者の負担が大変厳しくなっている。市の助成を検討願いたい。

討議要綱 P19 に「心身の健康を保つために、高齢者が」と記述されているが、「心身の健康を保つために、高齢者と障がい者が」に訂正願いたい。

コミュニティセンターは、全体として施設が老朽化している。使い勝手が悪いという指摘もある。これらについての対策を検討推進していただきたい。

【委員長】

計画は理想ばかり書くものではなく、本当は考えたいところだ。今後、今回の計画をどういうタイプにしていくか、検討しなければいけないと思うので、それまでお待ちいただきたい。

【市民】

就労支援は全市民が対象である。そのため、討議要綱 P20 の「高齢者・障がい者などの就労支援」は削除し、P28 の「就労支援」と統合してほしい。P28 は次のように訂正したらどうか。「様々な就労支援のニーズがある。市民の要望に応えるため、国の施策（ライフワーク・バランスの取り組みや、ハローワーク事業）にも留意しつつ、支援策を検討推進する。」

老人福祉施設の入居希望待機者数を把握しているか。週刊ダイヤモンドによると、武蔵野市の老人福祉施設入居定員数は、全国 805 都市中 801 位であり、討議要綱 P17 の③の記述に違和感を持つ。

【市民】

福祉の理念は、従来、「良福祉・中負担」となっているが、「高福祉・中負担」とできないか。市民のボランティア活動により、負担は抑え、北欧並みの高福祉にできないか、と思っている。

地域福祉活動の拡充に関しては、地域の市民の力が大事。また、地域社協が担うことが多いと思う。お年寄りなどの非常事態にすぐ動くシステムが必要だ。

【市民】

弱者切捨て的なことが多くおこっている。弱者対策となる強力な施策の推進が必要だ。

高齢者の医療費負担が増となっている。所得に応じたかたちで、負担軽減策の実施をお願いしたい。

【委員】

国・都の施策が生活に及ぼす影響を市としてどのように独自に緩和していくかが重要。最後まできちんと論議していく。武蔵野市は地域密着型が弱い。市民が頑張り、市民がたちあげて、地域に展開できるようにしていきたい。

【委員長】

頂いたご意見について、活かせるものは大いに活かしていく。

3. 子ども・教育分野

【市民】

幼稚園と保育園が別々に論じられている。10年先の武蔵野市を考えるという観点では、二つは関連しあうものであり、二つを包括した概念を論じる必要がある。

【市民】

保育園のあり方については、既に改革がなされ、評価がされたところである。さらにあり方を検討するには違和感がある。コスト差を議論の根幹におくことには問題がある。

待機児解消は急務であるが、認証保育所で全て解決できるものではなく、認証保育所制度の問題点もあるので、第一義的には認可保育園で解消するべきである。

子育て支援施設は、0123のような大型施設ではなく、小さい施設でも、子どもの手を引いて乳母車で行ける範囲にあることが望ましい。

学童クラブとあそべえは別組織であるので、学童クラブ在籍児童の土曜日の過ごし方については、国のガイドラインでも土曜開所が言われており、学童クラブで解決を図るべき

である。

【市民】

総論が、どのように各論に結びついているのかが分かり難い。市民としては、具体的にどうなるのか、に関心がある。

歩いて行ける場所にたくさん、というのが市民の望みである。子育て中の親子は、一方的にサービスを受けるだけの存在ではない。地域でお互いに助け合い、結びつきながら、子育てをしていく場所をたくさん作りたい、それが「居場所」になる、という議論をしてきた。共助を支える、という意味で市民を育てる視点での企画を検討していただきたい。

境圏の子育て支援施設の検討を行うときには、サービスの受け手である市民の視点が入るよう、市民参加をお願いしたい。

【市民】

学校教育の充実についての方針や理念に関わる部分があいまいで、具体性に欠けている。

学校施設の緑化は、心身の健全育成を目的とした環境教育施策、教育施策の一つとして提言したものである。校庭芝生化については、教育、環境の両側面からプラスの効果もあるが、養生期間などのマイナス面を指摘し、反対意見があることも事実である。プラスの側面を最大化、マイナスの側面を最小化する姿勢が求められる。

学童クラブが現状抱える問題について、校内移転の推進、開所時間の見直し、土曜日開所、指導員の待遇改善など、環境としての質の向上が欠けている。

青少年の「居場所」について、討議要綱や一般的な議論において、文化活動施設を中心として捉えられている。青少年の心身の健全育成のための居場所として、高学年以上の青少年が運動できるスペースが不足している。各地域に利用しやすいスポーツ広場が整備されることが必要である。

【市民】

ハコモノの考え方が多く、ソフト面でのフォローに対する記述が不足しているのではないかと。また、行政の雇用条件が良いと、NPOや市民団体等のサービスの担い手がそちらへ流れてしまう。全体のバランスの良い施策を展開していただきたい。

0123、小学生の居場所は比較的ある。運動量の多い4、5歳の子ども達の居場所が不足している。

【市民】

女性の社会進出、共働き家庭の増加など、社会や家族のあり方が変容している中で、安

心して子どもを産み育てられる武蔵野、未来を担う子ども達に夢を与えることのできる武蔵野を目指すかどうか、行政の基本的な姿勢と理念とを基本において議論していただきたい。

待機児解消のための保育士の増員や、アレルギーやアトピー児の給食対策を検討することが、地域の子育て支援においても、役立つのではないか。

子育て支援コーディネータとしては、退職した保育士を活用するとした方が良いのではないか。

待機児解消については、児童福祉法でも行政が責任を負うと書かれている。子ども達が健やかに育つ保育サービスの拡充について、親や行政のニーズに合わせるのではなく、子ども達にとってどうすることが良いのかという基準での判断をしていただきたい。

1館のみの児童館の来館者数の減少をもって、児童館のあり方を問うのは乱暴ではないか。自由来所型のあそべえとは機能が異なるものである。

【市民】

市民会議では、保育園について、コスト面を基本にした議論ではなく、子ども支援の質の確保のため、必要な費用をかけるべきだという議論を行った。

認証保育所は非常に不安定な基盤に基づく制度である。これを施策の基本に据えることに、行政は責任を負えるのか。また、コストを下げるために非常勤職員が中心になるが、保育の質を確保できるのか。認証保育所の位置付けについては再検討いただきたい。

認可保育所の定員の弾力化は既に限界に近く、さらに進めるのはいかなものか。

【市民】

保育園や学童は、ある程度、障がい児の受け入れ体制があるが、あそべえでは受け入れ体制が出来ていない。子ども・教育分野についても、弱い立場への配慮についての書き込みが必要である。

国際理解教育及び食育の観点から、食糧自給率はわずか4割に過ぎないことを教えることが必要である。

子育て支援施策として、若年層が住み続けられるよう、住居の施策も必要ではないか。

【委員】

学童クラブの土曜開所は必要ではないかと感じている。調整計画（案）の策定に向け、よく議論したうえで、落とせるところは落としていきたい。

青少年の居場所としてのスポーツ広場の必要性についても、今後議論していきたい。

【委員】

市民が主体となった活動を市民自身が望んでいるのだとすれば、協働のあり方として、行政としての役割は、場所の提供や活動の立ち上げの支援などだろう。子育て中の親子の居場所というニーズについても、市民の活動を支援する仕組みを研究すればよいのではないかと思う。

【委員長】

経営の観点からの選択も必要であり、全部を完全に満たすことは不可能だが、最大限このような話を参考にさせていただきたい。

4. 緑・環境・市民生活分野

【市民】

「地球温暖化」という言葉が、1か所も出てこないのは非常に残念だ。「地球環境」という言葉は何か所か出てくるが、現象として出ている地球環境の根源的な理由は、温暖化の問題だと思う。前の計画では、最大の環境問題は地球環境である、と切り切っている。その辺を少し考えていただきたい。

環境配慮への誘導制度の導入検討は、大事なことだと思うが、1つは市の施設におけるエネルギー削減は当然だが、更に、市民一人一人のレベルにまで掘り下げていく施策をしなければいけないと思う。誘導制度の導入は、フィフティ・フィフティについて記述されているが、ほかにも幾つか有力な具体策があるので、調整計画の中で具体的に触れてもらいたい。

【委員長】

具体的な提言はあるか。

【市民】

太陽光発電の助成は有効な施策だ。現在も行なわれているが、もう少し拡充し、市民に対する啓発も含め、広げていかないといけない。例えば、市内の全体のエネルギー消費量をどのくらい減らすか、現実的な目標を掲げて、具体的に施策を講じてもらいたい。

【市民】

ごみの分野に関して言うと、一般廃棄物処理計画のごみ市民会議が今年1月からスタートした。さらに、今度ごみ減量協議会という事業者、学生、市民の実際に動く会議が、9月から始まることとなった。大・中の目標、そして現実に動くというところに市民が企画

の段階、計画の段階から意見を言って、一緒に動いていける形になりつつあることをうれしく思う。調整計画の中では、細かい具体的なノーレジ袋キャンペーンなどは載せる必要はないが、ごみを減らす行動をする市民に対してどんな誘導政策ができるかを考えていただきたい。

【委員長】

具体的な提言はあるか。

【市民】

地域通貨を用いて、例えば、生ゴミを自分の家に埋めている家庭には、ムーバスに乗れる通貨を発行したりする制度が考えられる。

【市民】

市民会議の議論がほとんどのっていないのが残念だ。市民生活が豊かなまちというが、実感として反映されているか疑問だ。路線商店街は疲弊している。市は商工課を独立させて力を入れるべきである。路線商店街が地域コミュニティで果たしてきた役割は大きい。消費者と商店街との意識のギャップもあると思うので、実態調査を行ってほしい。そして、武蔵野の産業振興条例を策定してほしい。

【委員長】

商店街、商業の問題は大切な話でそこに携わっている人たちの苦しみも市民の苦しみだと思うが、今まで全然語られることがなく、消費者の側からしか語られていないのは、武蔵野の七不思議の1つだと思う。ただ、いろいろな角度があるので、これもコミュニティの問題と一緒に多元的な角度から見ていくような対処があり得るのではないかと、思っている。

【市民】

路線商店街活性化のために、グリーンパーク商店会を中心に、コミュニティを巻き込んだモデル地域を設定したらどうか。

農業振興基本計画について、良い意見もあるが、農業従事者の視点のみから語られているが、武蔵野の農業をどうするかという市民の側から語られていない。次の見直しに向けて、構造改革特区も含めて、都市農業をどう再生していくかの検討を課題としてあげてほしい。

歴史資料館は、まだ検討課題になっているが、図書館などに附属する室ぐらいで、できれば武蔵野の平和の問題も含めて中島飛行機、それから日本で一番最初に被爆に遭った東

京武蔵野の歴史も含めて、図書館の中で検索して十分に活用できる形で残して、設置していくという方向で検討してもらいたい。

【委員】

非常に悩ましい課題で、ご発言のような形で、先日、非核都市宣言 25 周年の記念事業として中島飛行機武蔵製作所の展示がありましたが、拝見すると非常に価値のある資料だということのを再認識したので、新しく何かを建てるというのではなく、別の形での保存を考える必要がある、ということをお教えもらった。

【市民】

コミュニティセンターが果たしてきた役割は大きなものがあった。それが及ばなかった空白地域が幾つかあり、境 1～3 丁目と境南町 1 丁目で非常に大きな要望が出ている。コミュニティセンターが無かったために、地域づくりがうまくいっていなかった地域もある。私はコミセンの果たしてきた役割は十分認めるが、先ほどからいろいろなところで、居場所づくりの話がされている。お母さんが乳母車を押していける範囲での拠点や、高齢者が日常的に話し合える場が欲しい。住民の願いは、小さな場所でもいいから、そこへ行けばおばあちゃんもいて若いお母さんもいて、子どもたちもいる、そういう居場所が欲しい。そういう要望があることを、ひとつ心にとめていただきたい。

【市民】

武蔵野市が良い環境をこうむっている背景というのは、井の頭公園、神田川、千川など、いろいろ周辺の自然環境の恩恵がある。また、緑化は武蔵野市は 22%から 24%にするのに十数年かかっている。環境というのは、そういう部分で、市だけの問題ではない部分が非常に多いということをぜひ検討いただきたい。

コミュニティセンター開設から 30 年経ち、格差が大きくなっている。管理者によって、まちづくりに対するコミュニティセンターの役割についての考え方が違う中、問 9 のように一般論的に書かれると違和感を感じるコミセンもある。

【市民】

国際交流が緑・環境・市民生活分野と一緒に、子ども・教育分野からは消えた。子どもの国際交流は、国外へ出ることだけではない。武蔵野市国際交流協会では、三鷹の中学へ出張して、欧米の研究者で地元では教員をしている人、アフリカ人の日本企業に勤めている会社員などと子ども達が楽しく交流している。記述されている文化理解も理解できるが、教育現場に子どもが小さいときから世界中と仲良くするにはどうしたらよいか、

ということを考えられる環境づくりをぜひ考えていただきたい。

【市民】

コミュニティ条例を見直すべきだ、ということを強調してきた。理由は、コミュニティ条例は行政がつくって市民に押しつけてきたと考えているからだ。市民がコミュニティとは何か、コミュニティセンターの果たす役割は何かということを語る機会をとられてしまったという損失は、大変大きいものだった。現在のコミュニティ間の格差の拡大は、自主三原則が保障されているが、今はそれが足かせとなって、コミュニティ研究連絡会と言いながら、十分に研究したり、コミセン間の交流がなかったりというのが現実がある。また本来ならば、職員も十分果たす役割があったと思うが、自主三原則にひっかかり、なかなか意見を言いきれないところがあったのではないか。地球温暖化の問題や子どもの問題、さまざまな課題があるが、まずは私たち自身が、学び合う中で初めていろんな課題が浮かび上がり、そしてコミュニティの大切さ、あるいはコミュニティセンターの果たす役割が浮き上がってきたと思う。そして、学びの中から、それぞれのコミセンがどういう役割を果たしていったらいいのかとなり、自主三原則が生きてくる。コミュニティ活動は、一方で必ず市民の学びをともにしながら、本質的な目的をコミュニティセンターで果たしていくのだと思っている。そういう意味で、市民の学びをもっと保障、充実させてもらいたい。

【委員】

コミセンについては、どの辺まで踏み込む必要があるかということを考えていたが、参考になった。

【市民】

緑・環境・市民生活分野では、市民会議の提言書の序言で、今後行政の施策においてPDCAを適用するというのを基本的な姿勢にしたいと訴えてきた。今までの武蔵野市では、企画は行政で、実行は市民という構図が成り立ってきたが、討議要綱の作成では、企画の段階から市民が参画したという意味で非常に画期的だと思う。これから実行に移すためには、ただ企画から実行に一足飛びに行くのではなく、それぞれの段階で市民が参画する図式をつくってもらいたい。全ての段階、場面で市民が行政と同じ情報を持って参画することが、基本的なステージではないかと思う。今後の調整計画の中にそれを盛り込んでいただきたい。

【委員】

情報の共有、交流は大事なことだ。計画段階から市民と行政が情報を共有し、一緒に考

えていく。そして、その計画を立ててやったことに関して一緒にまた振り返りをしていく、そういう組み立ての中で行政と市民のイコールパートナーシップ、対等な協働というのが実現していくと思う。環境のことで、市民会議、協議会、そしてこの計画があるという話があったが、それぞれの間でどういう話し合いが行われているのか、という情報の共有はあまり進んでいないのではないかと、思う。調整計画をつくる委員会をやっているが、行政の中で動いている全ての情報が入ってきているのか、というと残念ながらまだそうではない。情報を共有しながら物事を進めていく、ということが非常に大事なんではないかと思う。

【市民】

学校の緑化を取り上げられて、その中でも特に「校庭の芝生化についても試行を行い」という形で取り上げられて、非常に具体的でいいとは思いますが、学校の緑化は校庭の芝生化だけにとどまらずに、例えば屋上緑化、壁面緑化などいろいろなやり方がある。校庭の芝生化だけではなく、それらについても触れてもらいたい。ただし、どういう形で学校の緑化を行うにしても、重要なのは何のための緑化を行うのか。目的に沿っていろいろな形があると思う。校庭を芝生化するのは、運動のけがを防止したり、運動の意欲を促進するためなのか、あるいは砂じんを防止するためなのか、それともヒートアイランド現象を緩和するためなのか、いろいろなメリットがあるが、目的に見合った形でやる必要がある。運動のためであれば、それなりの形と面積が必要となり、室内の温度を下げるのであれば、壁面緑化、屋上緑化も非常に有効である。TPOに見合った緑化の形が十分検討されるような計画を望む。TPOに合った緑化は、学校に限らず、公園やまた公共施設に限らず壁面緑化等を推進していくようなサポート体制を整えられていくことも重要だ。

5. 都市基盤分野

【市民】

自主防災組織の整備について、市として積極的にサポートする形にして欲しい。

西部図書館はプレイスの分室的な形でもいいので、多目的な利用のできる図書館として残して欲しい。図書館はもっと増やして欲しい。

自転車レーンをつくり、自動車、自転車、人間をきちんと仕分け、住居部分、商業地部分については積極的に、もっと安全に交通できるようにして欲しい。

【市民】

「人にやさしいみちづくり」は市が管理する道の2%程度のみ。早期に実現するために道路行政を中心にし、市民が安全で快適に移動できるよう組織的、全体的に取り組むべき。

市内の交通人身事故の50%が自転車とのことだが、事故の重大性からいえば自動車によるものの方がはるかに大きい。問題の本質をとらえていない。自転車がある程度の速度で走れる空間、自転車レーンも必要。

地球温暖化の原因のひとつは自動車。市として問題の重要性を認識して取り組むべき。

外環道の地上部については市としての見解をはっきりさせる必要がある。調布保谷線、天文台通りの幅員、自転車レーン設置について都に働きかけるべき。

【市民】

大深度地下の部分は都市計画で決定されたが地下水等環境調査が足りないのでは。外環道は必要ない。

【市民】

外環の2は市長も市議会も住民も反対している。書き直して欲しい。

【市民】

吉祥寺グランドデザインは商業者が中心となつてつくったもの。市民の意見をもう少し反映させるべき。吉祥寺のまちに出た人が心を動かされるようなものを吉祥寺の文化としつくる必要がある。グランドデザインを進めるうえで考えて欲しい。

「潤いのある都市生活」というのは「周辺住宅地と商業地の重なる地区」ではなく、吉祥寺のまちそのものを指す。市民がどういうまちをつくるのかという視点で検討して欲しい。

【市民】

調布保谷線については交通量の調査を行い東京都に2車線の要望書を提出した。

少子高齢化のなか青年、学生が武蔵野市に定住するよう、住宅援助などの支援を行ったほうがいい。

【市民】

高齢者にとっては住宅を建替えるのは財政的に困難。都が行っているような耐震建築の工法についての展示会など、建替え以外の耐震対策の提案を市が行うべき。

【市民】

大きな家に住んでいる高齢者と子育て中の狭い家に住んでいる方の住宅を交換するサー

ビスを行っている住宅会社がある。市が直接行うのが困難であればNPOなどを立ち上げて民間の手法を取り入れてはどうか。

【市民】

公害の問題が討議要綱に抜けている。クリーンセンターの建替え、ごみ削減によって二酸化炭素がどのくらい削減されるのかといったことを数値でとらえアピールすると市民の意識も高まってくる。

【委員】

上・下水道、クリーンセンター建替え等これから財政的な負担を強いられる。道路や駐輪場整備は重要だという認識はあるが、限られた財源のなかでどう計画にして行くのかを考え、これから検討していきたい。

外環については市民会議のなかでも意見が分かれたところ。これから委員会のなかで方向性を決めていきたい。

6. 行・財政分野

【市民】

収入をどう使うかを考え、増税以外で積極的に収入増を考える必要あるのではないか。

自治基本条例については、市議会議員との関係など、どんなことが考えられるか記載してもらいたい。

市有財産については、売却ということも考えたらどうか。

【市民】

討議要綱を見ると、「研究」という言葉が多すぎる。具体的な計画にしていきたい。

金はあると考えず、いかに効率的に使うかという観点で検討をしていただきたい。

【市民】

プレイス建設は、市民のコンセンサスがとれていないし緊急性もない。調整計画の中で「見直しが必要」と答申しないと、市民はプレイス建設について変更ができないと思ってしまう。これまで、プレイス建設には補助金を使ってきているが、目的が変われば、別の官庁から補助金を引き出すことを行政は考えるべき。

【市民】

人事・給与の記載は、なんのことかよくわからない。今の人事制度の何が問題なのか。それによる職員のモラルやサービスの提供や生産性にどう影響を与えているか。職務給

でいくのか、職能給でいくのか、成果給でいくのか。検討をお願いしたい。

【市民】

武蔵野市の世帯数7万のうち、一人世帯が3万5000あることに驚かされた。社会を築いていく上で、家庭に依存することは原理的に不可能だ。また、課税所得700万以上の納税義務者が約7000人で、その人達が納めている住民税が全体の60%近いことにも驚かされた。武蔵野市の豊かさは、一握りの豊かな人が支えているのであり、市民の多数はなにか起きたときに社会的支援を差しのべねば生活困難に陥るということだ。コミュニティを再構築し、行政が市民に手を差しのべる。行政のあり方を本格的に見直し、市民の暮らしを支え、市民の自治を作ることが必要だ。

【市民】

構造が変革しているのだから、従来の過去・現在・未来という考えの計画では合わない。市民会議では300近いアイデアがでたが、そのうちの50~70くらいは、従来なかった視点なので見てほしい。例えば市有地の有効利用については、これまで市が考えなかった市有地の有効利用という議論が行われた。市民会議の議論と策定委員会の議論はずいぶん違う。市の理念として、シビルミニマムでいくのかシビルマキシマムでいくのか、もう少し議論を深めてもらいたい。

【市民】

クリーンセンターでは、建築後10年目頃に建て替え等を考えるシンポジウムを市民が計画した。当時の部長はOKだったが、最終判断で市長に却下された。市民が考えたことを為政者の判断でつぶされることは市政にとっても問題と当時感じた。今回、市民の思いで提言書を出したことはすごいと思う。市民も職員も市長も武蔵野市をよい方向にもっていきたい思いは同じ。

【市民】

実際に市民活動する中、社会保障や税金の制度が備わっていない状況での活動には理不尽な部分がある。市だけでも、なんとかしてもらいたい。市民活動を市が肩代わりするのではなく、団体に対して援助していく方向がないと市民活動は疲弊してしまう。市民自身もスキルをあげて、市民活動という意識がないと質が上がらない。教育が必要である。

【市民】

市有財産の有効利用を進めると記載してもらいたい。研究のままだと、研究結果がでるまで市民が利用することができない。

【市民】

自治基本条例は市民参加で作り始めるという記載をしてもらいたい。市民参加で作るにはある程度の期間必要。早く手をつけて丁寧に作ってほしい。

【市民】

自治体政府という言葉があまりなじむ言葉ではない。これをどうのように考えていられるのか。

【市民】

年齢構成の変化が示すことは重要である。20年後に減少する20～50代をどう増やしていくか。そのためには、武蔵野市に住みたい人をどれだけ増やせるかだ。行・財政分野の提言書では武蔵野ブランドイメージの創出とあったが、討議要綱の中にはなくなったことが残念。根本にかかわってくるテーマなので、再度取り上げてもらいたい。

【市民】

市の職員とはどういう人か調べてみた。職員の適性を参考までに紹介する。「住民の声を素直に聞く誠実さ」「アンテナを広く張り巡らせ、市民の意見や不満度を広くキャッチする」「正しいことはすぐに実行する行動力」「地域振興に役立つプランを積極的に出す」「柔軟な企画力がある」。基本を思い出してもらいたい。

【委員】

市民会議提言書を限りなく尊重しているが、討議要綱を策定する過程では、市の意見やもろもろの意見が入っている。本音を言えば、もっと言いたいことがあった。一回仕切り直して頑張る。

【委員】

自治基本条例について、市民会議の立場であれば自治基本条例をつくるのは市民合意であるのだろうが、市民全体であれば市民合意といえるのか。少なくとも条例を最終的に決定する市議会レベルで言えば、全然合意とは言えない。手続き面でいえば、自治基本条例という言葉は基本構想でも長期計画でもうたっていない。だから、調整計画で記載する可能性を探っていると思っている。その段階でも記載せずに自治基本条例を定めるのは、一般的ではないと思われる。市議会への働きかけをどうするか、市議会の取組をどうするか考えることが必要と思う。

【委員】

コミセンに格差があるということは、いいコミセンと悪いコミセンがあるということ。

そう判断する基準があるということ。それは、コミセンとはこうあるべきという考え方が前提。格差を是正するには一つの基準を作るべきということになり、自主三原則はやめるということになってくる。そうでなければ、格差でなく個性ということになる。

【委員長】

自治基本条例は今すぐ必要とは思わないが、装置として必要である。

お金を軽々という話と子育ての話とつきつめると計画は成立しない。選択することでギャップを最適にしていく。

7. 総括

【市民】

若年労働者対策をおこす必要がある。20代の人口移動が増えることは子どもが増えない、武蔵野市に定着しないことにつながる。対策が読めないので見解を聞きたい。

【市民】

平和という言葉がどのくらいでてるか数えたら、1か所だけだった。大事なことだが、長期計画にも載っていない。長期計画の章立てにとらわれず記載してもらいたい。持続可能な社会の最たるものが平和だ。調整計画ではきちんと書いてもらいたい。あと、武蔵野市の計画には自画自賛が多い。本当にそうだろうか。武蔵野市でも援助を求めている人はいる。マイナーな部分も無視しないような調整計画を作ってもらいたい。

【市民】

同感である。自治体からの平和の発信を記載してもらいたい。

【市民】

駐車場に緑をという提案を市長への手紙に出したところ、自然環境センターで検討すると回答があった。この問題は、緑・環境の範囲だけでなく、車優先の社会の見直し、地球温暖化にもかかわる問題だ。駐車場で利益あげている方たちは、利益に見合うだけの二酸化炭素の吸収力をもった木を植える、それを条例化することを検討願いたい。

【市民】

人事・給与制度の改革について不明な点がある。健康・福祉分野の市民会議では、職員は市民の目線にたって仕事をする、まちに出て顔を見て問題を汲み取る、ということをし合った。討議要綱に書いてあることを見ると、職員は勤務評定する人の顔を見てしまい、市民のことを分かってもらえるのか疑問に思う。

【委員】

その危惧はある。職員が職場環境でストレスを感じてしまうと、市民に戻ってくると考えている。そこで、職場環境の改善を記載した。

【委員長】

その前提として、人事の概念が古すぎる。ここは、市民の目線にたったこととつながる評価にしていかななくてはならない。

【委員】

勤務評定制度はすでに導入して歴史がある。市民の目線を汲み取ることと勤務評定制度は両立する話である。仕事に目標を立て、どの程度成果があがったかを評価するための道具である。時代にあった改革をしていくということである。

【市民】

計画を作る際、比較表を作成してもらおうと市民としてはわかりやすい。総花的でなく、焦点を絞って、何を武蔵野市がしていくのか明示していただきたい。

【市民】

西部図書館は小さな図書館だが、地域の方や高齢者が集い、あたたかさを感じる。私たちは大きな図書館を望むのではなく、地域に根ざした建物が必要と思っている。

【市民】

意見交換の場を与えられたことには、隔世の感がある。いいことと思う。これまでの意見を聞いてキャッチフレーズを考えた。「となりが見え、歩いて楽しいコンパクトシティむさしの」。隣同士で助け合い、子どもの声が聞こえるといったまちになってもらいたいと思った。

【市民】

児童福祉という言葉が出てこない。武蔵野市では子どもの福祉が切りはなされている。東京都の福祉総合計画では、子どもから大人まで福祉という考えである。子育ての視点での児童福祉という視点を入れていただきたい。

【市民】

一人暮らしのお年寄りの安全安心のため、共同で暮らす小さな施設をたくさん欲しい。グループリビングという考えの施設を、できれば公設民営の形でつくってもらいたい。

【市民】

討議要綱を全部読まないといけないしくみになっている。体系化して、政策、施策、

成果、背景等を図にまとめてもらいたい。市民会議の中身は具体的な項目がたくさんでている。委員会の報告が市民会議の項目のどれにあたるのか事例を示してもらいたい。

8. 閉 会

【委員長】

これだけコンパクトでインテンシブな議論ができたのは武蔵野で初めてと思う。策定委員会は、いろんな意見を切り貼りするのではなく、きちんとした考えのもとに編集し直していく。一方には、行政の問題や都市経営という問題もあり、厳しい条件であるが整理して調整計画策定に向かいたい。今日はありがとうございました。